

令和7年度

直方市中学生・高校生海外派遣 事業報告書

Find myself and take
off toward the world.



Let's learn about the world
and find myself.

令和7年12月

直方市教育委員会

事業報告書 目次

1. 事業理念
2. 事業概要
3. 派遣団員紹介
4. 事業者紹介
5. スケジュールについて
6. プログラムについて
7. 事前研修
8. 現地研修
9. 派遣団員の声
10. 派遣団員手記

1. 事業理念

直方市教育大綱

未来を拓く

新しい時代をたくましく生き抜く人づくり

1. 時代の変化を見据えた教育への変革と推進
2. 可能性を引き出し、才能を伸ばす教育の推進
3. 文化を尊重し、国際性と豊かなコミュニケーション力を育む教育の推進
4. すべての人の幸せをかなえる教育の推進
5. よりよい自己実現をめざし、生涯学び続ける力を育む教育の推進

事業創設の趣旨

教育大綱の実現のために

本市では、「未来を拓く～新しい時代をたくましく生き抜く人づくり～」を教育大綱に掲げています。未来を見据え、自らの人生を切り拓き、よりよく自己実現を果たす力を持つ人材の育成が、地域の未来を切り拓いていく力となるものと考え、これまでの手法や慣習にとらわれない教育の改革、そのための投資を行い、未来をたくましく生き抜く人づくりのための教育施策を推進します。

VUCAの時代に子ども達に必要な力

昨今では、世界情勢の変化やAI(人工知能)などテクノロジーの急速な進展により、物事の不確実性が高く急激な変化が起こる時代であり、将来の予測が困難な状況にあります。VUCAと呼ばれるこの時代に子どもたちにとって本当に必要な「生きる力」を育むことを目的に本事業を創設しました。

子ども達の未来の選択肢を増やす

家庭や学校以外での体験が子どもたちの未来に与える影響は計り知れません。直方市に住む子どもたちが置かれた環境に関わらず、自分自身の新たな可能性を見出し、より多くの選択肢から自らの力で進みたい道を選び取ることが出来る機会作りを目指します。

2. 事業概要

事業の目的

1. 子どもたちが興味関心を世界に広げるとともに、海外の文化・芸術・自然に触れることで多様な感性を育み、未来の選択肢を増やすこと。
2. アントレプレナーシップ（起業家精神）の醸成をテーマとしたプログラムを体験することで、将来の予測が困難な時代に必要な「生きる力」を育み、変化のなかに機会を見出し、自らイノベーションを起こしていく次世代リーダーを輩出すること。

アントレプレナーシップ教育とは

起業家（アントレプレナー）に必要とされる精神【チャレンジ精神・創造性・探究心】や資質・能力【情報収集・分析力・判断力・実行力・リーダーシップ・コミュニケーション能力】の育成に着目した「生きる力」を育てる教育です。不確実性が高く将来の予測が困難なこれからの時代においても、自分の強みや輝ける環境を認識し、変化の中に機会を見出して自らイノベーションを起こすことで未来を切り拓いていくことができる人材の育成を目的としています。

テーマ

中学生

「世界を知る。わたしを見つける。
—Let's learn about the world and find myself.—」

高校生

「わたしを見つける。世界に羽ばたく。
—Find myself and take off toward the world.—」

事業の概要

- 派遣先 / フィンランド（ヘルシンキ周辺）
- 派遣期間 / 令和7年8月17日（日）～24日（日）
- 参加負担金 / 無料（パスポート取得費用やお小遣い等個人的な費用は自己負担）
- 対象 / 市内在住の中学1～3年生及び市内在住かつ市内高校に通学する高校1～3年生
- 派遣人数 / 中学生8名、高校生4名
- 主催 / 直方市教育委員会
- 運営形態 / 業務委託

3. 派遣団員紹介

中学生

原田 百愛
植木中学校
3年生



石加 空愛
嘉穂高等学校
附属中学校
3年生



浦川 芭菜
直方第二中学校
2年生



三藤 里逢
直方第二中学校
2年生



西河 明音
嘉穂高等学校
附属中学校
2年生



井上 莉緒奈
直方第二中学校
2年生



辻 百花
直方第一中学校
2年生



加藤 蓮ノ介
直方第二中学校
3年生



3. 派遣団員紹介

高校生

岩尾 一晃
鞍手高等学校
3年生



川上 紗矢
大和青藍高等学校
2年生



三又 虹花
鞍手高等学校
2年生



中川 紗良
鞍手高等学校
3年生



現地メンター

宮下 彩夏 氏
ニックネーム
あーや

JAPANESE IN
FINLAND/EDU
研究・研修開発リーダー



柳沼 星羅 氏
ニックネーム
やぎー

スクールパートナー兼
アクセラレーター

4. 事業者紹介



Tiger Mov

未知の力で、人生を動かす。

商号

タイガーモブ株式会社

所在地

東京都渋谷区神山町5-20 ZINE YOYOGI-KOEN 1B

TEL

050-1751-2037

事業内容

教育機関／地方自治体向け海外研修・カリキュラム・授業の企画実施
海外インターンシップ等の実践・探究機会の提供・法人向け研修の企画、実施

代表取締役

代表取締役CEO 菊地 恵理子



代表取締役CEO 菊地 恵理子

関西学院大学、Lee Kuan Yew School of Public Policy「ASEAN地政学プログラム」修了。中国留学や海外インターン、世界各地への一人旅を通じて人々のモットーを集めながら異文化理解を深める。人材会社入社後、2年目で海外事業部を立ち上げ海外インターン事業を創設。約600名の海外派遣実績を経て独立し、「次世代リーダーの創出」を掲げてタイガーモブ株式会社を設立。現在は世界45カ国で越境型の学びを提供し、若者の挑戦を支えている。三児の母。関西学院大学非常勤講師、内閣府国際交流事業委員。女性起業家大賞特別賞、EY Winning Women 2018ファイナリスト、Next Education Award 2024ファイナリスト、東京女性創業者優秀賞などを受賞。



本プログラム運営者 柳沼 星羅

タイガーモブ・スクールパートナー／アクセラレーター

獨協大学卒業。新卒で三井住友海上火災保険株式会社に入社、5年間企業営業に従事するも、やはり世界中の子ども達の可能性を広げることがしたいと、国際協力の道を志し、JICAに転職。ヨルダンやパレスチナのODAの新規案件形成に取り組み、2022年にヨルダン、2023年にパレスチナ・ガザ地区に渡航。

JICAで様々なプロジェクトを担当する中で、中でも教育分野で世界中の子どもたちの可能性を広げるような活動に尽力したいと思い、2024年6月よりタイモブにジョイン。

子どもたちに異文化を楽しむ原体験を届けるNPO法人ナタテココの副代表も務める。

「LEARNING BY DOING（実践による学び）」をコンセプトとし、自分の体験したことのない環境に飛び込み、実践を通じた学びを得る機会を提供する。

教育機関向け
探究プログラムの提供



幼稚園から大学まで教育機関向けにオンライン・オフラインを駆使し実践学習機会を提供。

個人向け
越境プログラムの提供



人生のターニングポイントとなる経験により多くの方にお届けするため、世界各地で挑戦の場を提供。

企業向け
越境プログラムの提供



若手から経営幹部に至るまで、海外での実践機会を提供しグローバルリーダーの育成に貢献。

5. スケジュール

▼全体スケジュール

日程	内容
4月 1日（火）～30日（水）	参加者募集期間
4月 21日（日） 10：00～12：00	事業説明会 [中央公民館]
5月 21日（水）	【1次選考】 結果通知書発送
6月 1日（日）	【2次選考】 個人面接
6月 3日（火）	【2次選考】 選考結果通知書発送
6月 21日（土） 18：00～20：00	派遣団員顔合わせ [直方市庁舎]
7月 5日（土） 16：00～18：00	事前研修① [オンライン]
7月 23日（水） 19：00～21：00	事前研修② [オンライン]
8月 1日（金） 19：00～21：00	事前研修③ [オンライン]
8月 3日（日） 10：00～11：00	派遣団員壮行会 [歳時館]
8月 17日（日）～24日（日）	現地研修 [フィンランド]
9月 20日（土） 16：00～18：00	事後研修① [オンライン]
10月 8日（水） 19：00～20：00	事後研修② [オンライン・直方市主催]
10月～11月	報告書作成・報告会準備期間 [各自]
10月 31日（金） 18：00～20：00	事後研修③ [直方市庁舎]
12月 5日（金） 17：00～20：00	報告会リハーサル [直方市庁舎]
12月 6日（土） 9：00～12：00	報告会 [直方市庁舎]

6. プログラムについて

参加メンバー

直方市の派遣団員・引率者の他にタイガーモブ株式会社による一般公募型の参加者が一緒にプログラムに参加。現地の人々からだけではなく、年齢や職業、参加目的が異なるメンバーからも多くの刺激を受けました。

中学生8名（直方市8名） 高校生5名（直方市4名）
大学生8名 社会人7名（直方市引率3名） 計28名
スタッフ2名（現地スタッフ1名）

ルール

年齢や職業が異なる参加者同士がフラットに関われるよう、「敬語は禁止、ニックネームで呼ぶ」というルールを事前に設定。移動する際に共に行動する「運命共同体」システムを導入。異なるテーマで交流する機会を設け、多様な価値観があることの理解を深めました。

※ ニックネームは本人が呼ばれたい名前

ポイント

- ①森での自然体験や教育機関への訪問を通して、フィンランドのマインド・教育を理解する
- ②実践を通して理解を深めるインタビュー・授業ミッション
- ③現地高校生との意見交換・コラージュ作品作成
- ④自分を見つけ、表現する様々なワークショップ
- ⑤最終発表

リフレクション （振り返り）

プログラム中の成長を加速させるための仕組みとしてリフレクション（振り返り）を毎日実施。その日の出来事を記すのではなく、感じたことや思ったこと等、頭に浮かんだことをありのままに書き出していく「ジャーナリング」を行い、そして発表。シンプルに考えること、それを言葉にすること、そして他者の言葉に耳を傾けることでさらに学びを深めました。

7. 事前研修

事前研修①

日本全国から世界へ飛び立つ仲間と想いを共有し、渡航に向けて心の準備をする全体事前オリエンテーション。



全体の概要説明/参加者自己紹介タイム/ワークショップ“Dear me”/SAFETY PROTOCOL（安全のためのルール）/渡航準備の説明/宣言タイム



今日のゴール

- お互いを知る・自分を知ってもらう
- 現地で向き合う問いを見つける

事前研修②

なぜ参加したのか、自分自身の心の内や他の参加者の声を聞く時間、フィンランドで探りたいことを見つめる研修。プログラムやスケジュールの説明。



メンバー紹介/プログラム中のルール説明/探究したいことのシェアやワーク/フィンランド情報インプット/スケジュール共有/渡航準備の進捗状況確認

事前研修③

フィンランドの国、教育、自然についてのインプット。「インタビューミッション」や「授業ミッション」のグループ分けや作戦会議。渡航に向けた安全対策講座。



カフト（フィンランドに関するクイズゲーム）/現地の訪問先についてのインプット/ミッション作戦会議/安全対策講座



8. 現地研修

8.17 [Sun.]

16:10 北九州空港発（羽田空港経由）

8.18 [Mon.] 【Day1】

4:40 ヘルシンキヴァンター空港 着

8:00 ヌークシオ国立公園に移動、ネイチャープログラム

14:00 現地ガイドとともにトレッキングツアー

17:30 夕食

8.19 [Tue.] 【Day2】

8:30 朝食作り～ネイチャーゲーム

12:30 チェックアウト後ヘルシンキ市街へ移動～ランチ

15:00 ガイドによるOodiツアー（日本語、英語の2グループ）

18:00 city center2Fで夕食

8.20 [Wed.] 【Day3】

10:00 青年評議会連合訪問、終了後ヘルシンキ中央駅へ

12:00 クイックツアー＆ランチ

13:30 街頭インタビューミッション

17:30 夕食 日本人交流会＆ミッションの発表



8. 現地研修

8.21 [Thu.] 【Day4】

9:00	小中学校訪問 見学～給食ランチ～授業ミッション
15:00	授業ミッションのまとめ及びワーク
18:00	夕食後振り返り

8.22 [Fri.] 【Day5】

9:00	高校訪問・コラージュ作品作り
12:00	給食ランチ・学生との交流
14:00	ジャーナリング・最終発表準備
19:00	夕食後振り返り

8.23 [Sat.] 【Day6】

10:00	最終発表@Oodi
14:00	Oodi前広場にて解散、空港へ
18:30	ヘルシンキヴァンター空港 発

8.24 [Sun.]

19:45	（羽田空港経由）福岡空港着
21:30	福岡空港 解散



Day1

ネイチャープログラム@ヌークシオ国立公園



プログラムの始まりは大自然の中から。自分を表す自然の物を探しての自己紹介をしたり、自然の中で魅力的と感じた部分を伝え合うなど、楽しみながらリラックスして自分と向き合い、一人ひとりの感性を共有しました。



現地ガイドKaiとともにトレッキングツアー



フィンランドで最も人気の高い国立公園で全身を使った自然体験。フィンランドには誰もが自然を探索し楽しむ権利「自然享受権」があり、ベリーを摘んだりハイキングを楽しんだりすることができます。

3時間ほどのトレッキングツアーに参加。野生動物についてのレクチャーを受け、散策しながら自然への理解を深めました。「ないものは自分でつくる」というアントレプレナーシップ精神がいかにフィンランド人を支えているかを学びました。



Day2

ネイチャービンゴ・偏愛マップ



ビンゴの数字を、生き物や植物などを探して見つけることで達成するネイチャービンゴに挑戦。見落としがちな、小さくささやかな自然の姿に目を向け楽しみました。

興味・関心を可視化する「偏愛マップ」に挑戦。いざ書き出すとどんどん好きなことが出たり、以前興味あったものが思い浮かばなかったりと、今の自分を見える化しました。



世界一イノベーティブな図書館「Oodi」ツアー



フィンランド独立100周年を記念し、「市民への贈り物」として建設されたヘルシンキ中央図書館「Oodi」。世界1イノベーティブな図書館に選出され、国民のリビングルームととして、図書以外にも様々な設備を提供しています。都市空間の役割や暮らしを豊かにするデザインやサービスを考える機会となりました。



青年評議会連合訪問



若者が社会に影響を与え、行動する機会を促進する専門組織。意思決定の場に若者の意見を届けたり、影響力のある若者を育成することなどを目的として活動しています。活動する若者の生の声と感性に触れたことで、自然に、活発に質問が出ました。



突撃！？街頭インタビューミッション



幸福度ランキングNo.1、平等性と自主性を重視した教育、森林や湖の多い国、自然享受権など、様々な特徴があるフィンランド。実際はどのような？を街中でフィンランド人や観光客へ聞いてみました。ヘルシンキ中心地エリアにて目標は1グループ50人にインタビュー！異なる文化を持つ方々との会話は新鮮でした。



Day4

フィンランド流アクトレブリーダー教育を視察



カンカラブイスト小中学校を訪問。新しい校舎で、1年生～9年生（小・中学校）までが在籍。多言語の母国語教育の提供や、アスリートコースも。ユースセンターや幼稚園などがまとまる総合施設としても機能しています。



日本文化を伝える授業ミッション！



ただ学ぶだけではなく、自ら主体的に楽しく学べる授業を渡航前から自分たちで企画及び準備。児童生徒とのコミュニティのみにとどまらず、実際に1コマの授業を実施しました。

Learning by Doing !

「書道」「折り紙」「着物」「日本語」「遊び」「踊り」のテーマ。工夫してたのしく学べるように事前準備は万端。英語での説明をやり遂げフィンランドの子どもたちも飽きることなく、お互いに笑顔あふれる授業となりました。



高校訪問 高校生との交流



エト・トゥーロ高等学校を訪問。公立普通高校・アントレプレナーシップ教育コース、教科教員に加えて、学生サポート専門スタッフ、学習カウンセラーなども在籍する学校。まずは学校生活や文化の違いについて、お互いに紹介、交流を深めました。



高校生との共創：コラージュ作品作り



日本・フィンランドの学生の混合チームで「私の学校（学校の指針や実際の学生生活、好きなところなど）」「幸せとは」「どんな未来を描きたいか」についてディスカッション。「描きたい未来」をテーマにコラージュ作品を共同で作成。全員への発表はもちろん英語で！堂々と発表する姿が印象的でした。



Day6

全体発表 @ Oodi



最終日は再びOodiに。自分の探求やトピックがどんな風に深められたか、どんなアクションができるか、などについての学びや気づきを振り返り、今後はどう生かすかを明確にするためのリフレクション。今の自分の想いと未来への決意表明。



「ありがとう」を伝える



「Spot the shine」：この旅で見えたお互いの良いところ・才能を伝える「ありがとう」ワーク。改めて自分の強み・魅力を再確認、涙するメンバーもいました。最後にそれぞれ声を掛け合い、別れを惜しみつつ空港に向かいました。



9. 派遣団員の声

研修への意気込み

- ・挑戦!!!
- ・全身全霊でいきます!
- ・みんなで仲良く頑張るぞー!
- ・積極的に自分から!
- ・挑戦する!
- ・いろいろなことを学んで楽しめます!
- ・全力で頑張っって日本にたくさんの学びを持ちかえる!
- ・前向きに頑張っっていきます!!!
- ・色んな人と関わっって色んな考えを知る
- ・初めての海外、2回目の飛行機不安が沢山だけど、この経験と思ひ出を一生物にしたい!
- ・誰よりも学びを吸収してその学びをいろいろな人に伝えていくぞー!! 異文化
- ・後悔の辛さを知っってるから絶対後悔置いてこないようにする!!! やりたいこと全部やる!! 殻を破る!!!

心が動いた瞬間、印象に残ったこと

- ・日本人交流会。海外に行っって自分のしたいことを努力している姿をみて、憧れになった。
- ・実際に世界一幸せな国の教育を見て特に小学校の様子に印象に残った。寝ている子も居なく、みんな向上心と探究心を持って授業を取り組んでいるのが伝わっって、日本と全く違っって驚いた。色んな環境で学べる場所があるのはぜひ日本にも取り入れてほしいと思っった。
- ・青年評議会での話を聞いて、価値観が変わっってとても良かった。
- ・自分がまだまだ知らない世界の事を沢山知れたし、日本では学べない教育の部分の自分なりに学べた。

苦労したこと、それにどう向き合っった?

- ・自分が今まで話したことがない人と英語を使っって話すことができたこと。英語でうまく伝えられなかったことがあっただめ、別の言い方で相手に伝えるようにした。
- ・発表すること。もともと人の前で話すことがあまり得意ではなかったけど、自分が伝えたいことを伝えることに集中した。
- ・インタビューミッションで心が折れかけた。慰めあっって向き合っった。
- ・英語がいちばん話せなくて悔しい思ひをしたので、その気持ちをバネにこれから伸びようと思っった。
- ・英語をできない分、単語聞き取ろうとしたけれど、やっぱり難しくて日本に帰ったら英語を勉強しようと思ひをしたし、周りのみんなを見てモチベーションに繋がっった。
- ・高熱が出たとき。自分で何かを成し遂げたいはいいないが、周りにいる人たちに「助けが必要です」と伝えられた!

「持ち帰りたい学び」は?

- ・フィンランドでの学校の制度や目的が日本とどのように違うのか、疑問に感じたこと。
- ・人同士が信頼しあっていること。
- ・当たり前は国によって大きく異なるということを実感した。その違いを比べるのではなく受け止め、そこから学ぶ姿勢をこれからも大切にしたいと思っう。
- ・異文化に対する気持ちの考え方。
- ・私は今回の旅で一番思っったことは、周りとの助け合いそして自分の夢に向かって真っ直ぐ進むことが大事だと思っった。子供達が自分達同士で苦手を補い合う事、自分がやりたいことを何かと一生懸命向き合っって行動に移す大切さを沢山学べた。
- ・SISU!! と自分のとって公正・公平がどんな意味をもつか。日本はみんなに等しく分け与える=公平。フィンランドでは、必要なサポートを必要なだけ=公平の考え方が根底にある。この考え方が、学校の教育現場でも、公共施設でも人々の関係の場面でも現れていた。自分を大事にする → 他者を大事にできる → 社会の仕組みを公平に考えられる → その仕組みがまた自分を支える。フィンランドでは、この心のあり方、心のケアの仕方を理解しているからこそ、どんなコミュニティーでもバランスを取れているんじゃないかと感じた。だから、それを周りの人にも行動、言葉で伝えていきたい。すぐにできる小さなアクションとしては、「ありがとう」をちゃんと感じて、行動で還元していく。私が私であることをきちんと尊重する。

中学生 作文テーマ



「本当の自分ってなんだろう。」

この疑問が私を大冒険に連れて行ってくれました。そこで、この大冒険を振り返ってみようと思います。

まず、私がこの事業に参加しようと思った応募動機についてです。

この事業に参加した理由は、「海外の文化」を知りたいと思った事、「本当の自分とは何だろう？」という疑問を解消したいと思ったからです。他国の文化を学んだり、新しい事をする事が大好きな自分とは反対に、自分を誤魔化して何でも中途半端にのりくらり生きる自分。これからの私は何をして生きていきたいんだろう、という漠然とした悩みがありました。そんな時、学校からプリントが配布されました。それが、この「中学生海外研修事業」でした。そのプリントに載っていた、「世界を知る。わたしを見つける。」というテーマが、「私も、本当の自分と向き合って、後悔しない選択をしたい。」という思いを高め、応募する事を決意しました。

次に、現地で感じた事についてです。私が特に驚いた事は2つあります。

1 つ目は、『フィンランドの学校の授業』です。フィンランドの小学校を訪問し、授業を見学しました。日本での授業は、先生の話聞き、ノートを書いて、静かに座って行るのが一般的です。しかし、そこでは、生徒が楽な態勢で、先生の話聞きながら友達と議論したり、パソコンで作業をしたり、一人ひとり異なった学習が行なわれていました。授業中でも生徒の自由度が高く、一人ひとりの意志が尊重されている授業だと感じました。

2 つ目は、『自由』です。私は、「なぜフィンランドはこんなにも自由度が高いのだろう。」と、疑問に思っていました。2 日目にヘルシンキ中央図書館に行きました。図書館の中には、本だけでなく、3D プリンターや音楽スタジオ、ミーティングルームもありました。まるで未来の図書館のような造りで、ただ本を読む場所ではなく、人々が集まり、学び、創造する場となっていました。その中で私は、フィンランドの人々は、一人ひとりの「個性」や、「自由な発想」をととても大切にする文化があるのだと気づきました。だから、フィンランドは自由度が高いんだ、と疑問を解決することができました。

私が、特に心に残った出来事は2つあります。

1 つ目は、『街中インタビューミッション』です。街中インタビューミッションでは、通りすがりのフィンランドの人たちに「あなたが人生で大切にしていることは何ですか?」「幸せだと思う瞬間はどんなときですか?」とインタビューしました。そこでは、「家族と過ごす時間が一番幸せ」「自由に過ごすことが大切」など、たくさんの回答を頂き、国は違っても、大切なものはみんな一緒なんだな、と気が付き、心が温まりました。

2 つ目は、『青年評議会訪問』です。そこでは、「若者たちが社会の課題について真剣に議論し、自分たちの声を政治に届けようとしている。」と聞き、熱心な姿勢に感動しました。そして、青年評議会について話を聞いているときに代表を務めている青年が言った、「他人の真似をするのではなく、自分のやりたいような好きなことを探せばいい」という言葉が、私の心に深く残りました。その言葉は、自分らしく生きることの大切さを教えてくれました。これからの進路や生き方を考えるうえで、大きなヒントになったと思います。

この旅を通して、私は文化や価値観の違い、そして「本当の自分とは何か」について考えました。フィンランドの人々の暮らしや考え方に触れる中で、お互いを尊重しながら生きる事の大切さを実感しました。これまでの私は、周囲の意見に流されやすく、みんなに合わせることをばかり考えて、自分の意志を持てていなかったように思います。しかし、この旅で出会った人々の言葉や姿勢に触れ、自分自身の考えをしっかりと持ち、それを言葉にして伝えることの大切さを知りました。私は、将来アナウンサーになりたいと思っています。しかし研修の旅を振り返っているうちに、自分が得意な社会科の教師になりたいという夢も見つかりました。前の自分なら、「自分には無理だ。」「諦めよう。」と考えていたかもしれません。ですが今は、自分の将来についての視野が広がったことに、驚きと喜びを感じています。だから、アナウンサーになるか、社会科の教師になるかは分からないけれど、自分の人生に後悔のないように、揺るがない意見を持ち、人に良い影響を与えられるような人間になりたいと思っています。このフィンランドでの経験は、私にとって「世界を知る」だけでなく、「自分を知る」旅にもなりました。

これからも、自分らしく生きる事を忘れず、常に挑戦し続ける自分でありたいです。

今回私はこのフィンランドの研修を通して多くの気づきがありました。印象に残った体験は4つあります。

1つ目はヌークシオ国立公園での自然体験です。1日目ということもあり、大自然の中期待と不安でいっぱいでしたが、それ以上に貴重な体験ができました。瞑想では視覚以外の五感を使って風の音や木の匂い、鳥の鳴き声など短い時間でしたがいつも当たり前だと思っていた自然が広大に感じ、心を沈めて無心になることができリラックスできました。

さらに自分の好きなものを1枚の紙に自由に書き出し、他の人と交流しました。自分の好きな物を考えて書こうとしてもあまり思い浮かばなかったけれど、日常で自分が好きな時間や好きな瞬間など、考えてみるとたくさん出てきました。想像しているだけでもとても楽しい気分になりました。自分と向き合っ

て自分のことだけを考える時間はとても貴重であり、自分を知ることの大切さも分かりました。

2つ目は街頭インタビューです。自分に大きな変化がありました。最初は知らない人に話しかけるのは躊躇してしまっただけで、インタビューをしていく内に抵抗がなくなりもっとたくさんの人に意見を聞きたいという考えを持てるようになりました。

そしてインタビューでは「幸せを感じることに」について多くの人に聞きました。特にわたしが印象に残ったものは、今生きているこの一瞬という答えや朝起きることという答えでした。日本では自分の目でみえることに幸せを感じる人が多いと思います。だけどフィンランドでは自分にしっかり向き合い幸せを感じていてそれが幸福度の高い理由になっていると考えました。そして私は身近な幸せを見逃しているのではないかとそのとき感じ、一瞬一瞬を大切にし、やりたいことはそのときにすべきだと思いました。この考えは様々な人に自分から話しかけるとい

う新しい挑戦をしたことやインタビューに答えて頂いた多くの人との繋がりから得られました。そこで自分から行動を起こすことで人との関わりなど新しい発見があることを実際に感じる事ができました。

3つ目は小学校訪問です。そこでは日本との違いを感じました。最初に先生方から話を伺いました。小学校には多くの国籍の子供達が通っていてその分宗教や言語の違いがあり1人でもその宗教や言語の授業を必要としているなら用意すると聞きました。日本では需要があるか勉強に目を向けていると思うけれどフィンランドでは一人ひとりの個性や特徴を大切にしていると思いました。そして先生も自分の得意な授業ができるように、先生同士で交代したり1つの授業には2人以上で取り組んだりなど先生の働きやすさも考えられていると思いました。先生が幸せであることで生徒が幸せに学校生活を送ることができるという考えを聞いて自分の幸せは人にも繋がると考えました。私も得意分野である習字を教えることができ、得意なことがフィンランドでも活かすことができ幸せを感じました。

4つ目は日本人交流会です。ここでは3人の方とお話する事ができました。フィンランドでお仕事をしている方とお話をしたときに、日本にも同じ仕事はあるけれど、フィンランドの方が自分の条件にあっていたからフィンランドでお仕事を選んだという話を聞いて、私は、日本の中だけという狭い範囲で考えていたことに気づきました。もっと世界のことを知り、選択肢をより多くして、視野を広げたいと強く思いました。

フィンランドは、初めての海外で、自分自身への気づきや今までの自分にはないような新しい考え方、発見など多くのことが自分のものにでき、成長できたと思います。そして現地の方と話すという初めての体験で、想像していた以上に自分の英語力ではほとんど話すことができず悔しい思いをしましたが、英語の楽しさもより身にしみました。より多くの人と話せるようになるためにも日頃から勉強をし、英語力を上げます。さらに、今回一緒に研修をしてくれた仲間や現地の方との繋がりによってたくさんの学びがあり私は人との繋がり

フィンランドで色々な考えや文化に触れて、思った事が沢山ありました。

まず、1 日目で森に行き、この森の中にあるもので自分の性格や自分らしさがある物を3つ選んでみんなと交流しました。私は最初、3 つ目がなかなか見つけれずにいると残り 1 分になり、焦ってなんとなく3 つ目を決めてしまいました。不安の気持ちが強くなるなか、1 人3 つ目を持っていない人がいました。その人は「3 つ目を見つけれない優柔不断な一面も自分らしい」と言っていました。そこで私は本当の自分を出せていないと気づきました。これまで人と関わっているとき、無意識に共感されたい、認められたいという思いがあり自分らしさを失っていました。この日は、自分のままとだすという大切さを感じました。

次にフィンランドで 1 番大きな図書館、オーディに行った時に感じた事です。この図書館には本を読むスペースだけではなく、スタジオやゲームができる場所などリラックスできるスペースが設けられています。オーディを作るにあたって、リラックスできるスペースを作るという提案をしたのは 1 人の国民だそうです。たとえば学校でなにかを決めるとき、みんなで意見を出し合い、最終的には多数決で決めることが多いと思います。多数決は、一番多くの人を考えを取り入れられる便利な方法です。けれど、少数派の意見にもその人なりの理由や考えがあります。国よりも規模が小さい学校でも、ひとりひとりが満足できる結果を出すのは難しいと思います。人によって考えは違うので、話し合いの中でぶつかることもあると思います。かといって出てきた案を一つずつ採用するのも難しいです。それでもみんなの意見を聞きながら決めていくことはとても大切だと私は思います。国全体でひとりひとりの意見を大切に作る姿勢があるのは本当にすごいと思いました。たとえ少数の意見でも、きちんと 1 人の国民が出した意見として尊重されていることが伝わってきます。そのような考え方が全体に広がっているからこそ政治と国民の間に信頼が生まれているのだと思います。

私が 1 番フィンランドで知りたいと思った事は「なぜフィンランドが 1 番幸せな国と言われているか」についてです。野外インタビューでは、街の人に直接英語で質問しました。私は主に日常生活で幸せと感じることはなにかという質問をしました。いざ答えを聞くと、予想外の内容でした。「友達と過ごすこと」「スポーツをすること」「読書をすること」などどれもたあいもないことばかりでした。最初、フィンランドでは何か大きな取組があることで幸せを感じている人が多いと予想していましたが全然違いました。「どれも私たちの日常生活にあるものなのになんでこんなにも幸せとを感じるのか」とまた新たな疑問が浮かび上がってきました。現地の高校に行った時、私は 4 人グループで日本の学校とフィンランドの学校の文化について交流しました。現地の高校生に、野外インタビューで質問した「なぜフィンランドは幸せな国と言われているか」について聞いてみました。すると、自分の好きなことを全力でやっているからと言っていました。そこでフィンランドという国は、国民ひとりひとりがお互いを尊重し個性を大切にしていると感じました。それに比べ日本は周りの目を気にして自由に過ごせて居ないのではないかなと思いました。私はフィンランドに行ったことで「ひとりひとり」ということについてたくさん考えました。日本では好きなことをしているだけで理不尽に批判されることもあると思います。しかしフィンランドではひとりひとりの個性を大切に、それぞれが自分の好きなことを楽しんでいる様子が印象的でした。

私はこんなフィンランドで生活をしてみて、日本はとても息苦しいと感じました。常識という価値観に縛られ人の目を気にしてしまうからです。日本はもっとその人の考えや個性を尊重することができたらみんながもっと楽しく過ごすことができると思いました。もちろん今の私では国全体の考えを変えることはできません。だからまずは、家族や友達など、自分の身の回りの人に思いやりを持って接し、小さな理解の輪を広げていきたいと思います。そして将来はひとりひとりを大切に、優しさが溢れる大人になりたいです。

日本の教育に、私たちは本当に満足しているだろうか。

スプリックス基礎学力研究所が 2020 年 8 月から 9 月にかけて、日本を含む 11 カ国の子どもとその保護者を対象に教育に関する調査を実施した。その結果、「学校の授業に満足している」と答えた日本の割合は 41.8%と 11 カ国中最下位だった。一方、他国では 7 割台後半以上の高い満足度が示されており、日本の教育に対する子どもや保護者の満足度の低さが浮き彫りになった。この結果を知り、私は日本の教育の現状や、学びの在り方そのものについて考えさせられた。そこで日本とは異なる教育理念や授業の在り方に注目し、両国の教育の違いを見つめ直したいと思ったことが今回、フィンランドに行った理由である。

そもそも、なぜそこまで私が教育について関心を持っているのか。

学ぶことは本来、もっと自由で楽しいものだとは私は考えている。しかし日本の学校では点数や結果を重視するあまり、学ぶ意欲そのものが薄れてしまう場面を感じることがある。実際、私のクラスでアンケートを取ってみたところ、「勉強は楽しい」と答えた生徒は 33 人中 5 人とどまり、残りの 28 人は楽しくないと答えた。また、期末考査で 7 割以上の得点を取っている生徒の中にも勉強は楽しくないと感じている人が多かった。この結果からも勉強が「自分の成長」のためではなく「評価のため」になってしまっている現状がうかがえる。こうした日本の教育の在り方を見つめ直したいと感じ私は教育そのものについて深く考えるようになった。

ここまで日本の教育の課題について述べてきたが、もちろん多くの良い面もある。例えば、日本の教育では礼儀や思いやりの心を大切に育てている点は日本ならではの強みだと思う。実際、現地で行った街頭インタビューでも、日本について「礼儀正しい」「思いやりがある」と答えた人が多かった。こうした評価は、日本の教育が人との関わりや集団の中での強調を大切にしていることの表れだと感じた。

一方でフィンランドの教育では、「主体性」を何よりも大切にしているように感じた。私が見学した授業では先生が生徒に一方的に教えるのではなく生徒の意見を否定せず受け入れ、雰囲気の良い授業を作り上げているように感じた。また、発言する生徒も失敗を恐れずのびのびと発言し、学ぶことを心から楽しんでいる様子が見えた。そして、授業外でも日本とフィンランドの違いを見つけた。フィンランドの学校にはテラスや廊下に勉強できるようなスペースが数多く見られた。そこでは自分のやりたい勉強を自分がやりたいようにやる姿が見られ、そのようなスペースがあるのも主体性につながっているように感じた。また、自主的に学ぼうとしていることからフィンランドの学生は普段の授業で学ぶことの楽しさ、意欲を感じているのではないかと思った。

しかしフィンランドの教育にも課題はある。例えば、生徒一人一人のペースを尊重しているため生徒の中で学力の差が広がりやすいという指摘もある。また、課題やテストが少ないため自ら学ぼうとする姿勢が弱い生徒には学びの成果が出にくいこともあるようだ。それでも子ども達が安心して学び、自分のペースで成長できる環境を守ろうとする姿勢はとても印象的だった。

私は日本とフィンランドの教育を比べる中で、「どちらが優れているか」ではなく、それぞれの良さを活かすことが大切だと感じた。日本では協調性を重んじ、集団の中で支え合う力を育てる。一方でフィンランドは一人一人の個性を尊重し、自ら学ぶ意欲を引き出している。ただ、日本の教育では「間違えることを恐れる」空気が強く、挑戦する意欲が生まれにくいと感じる。フィンランドで見た、生徒が自信をもって意見を発表し合う姿から失敗を受け入れることの大切さを学んだ。

このフィンランド研修を通して、教育において本当に必要なのは「結果」ではなく「学ぶ過程」を大切にすることなのだと強く感じた。過程を大切にすることで学ぶことがもっと自由で豊かになると思う。将来は教育に関わる立場になりたい。その時には、生徒が「自分の成長のために学びたい」と思える環境をつくりたい。そのためには今回の経験で得た「学ぶ楽しさ」を日常の中で忘れずにいたい。フィンランドで過ごした一週間は普段よりも濃く、多くの学びに満ちていた。帰国後は日本の教育について改めて考えさせられたが、それこそがこの研修で得た一番の収穫だと思う。

以上のように、今回の経験を通して私は「学ぶとは何か」を深く見つめ直すことができた。この気づきを胸に、これからも教育について考え続けていきたい。

私が海外派遣事業に応募した理由は、自分の将来に役立てられると思ったからです。私は将来、教師になりたいと思っていて世界最高水準の教育をしているフィンランドのアントレプレナーシップ教育を見たいと思いました。

参加できることが決まり、事前説明会や当日に北九州空港に集合するときはとても気持ちが高ぶっている反面、初めての海外で不安でもありました。実際にフィンランドでたくさんの場所で活動をしてみて、日本とフィンランドの違いを実感しました。特に私が驚いた違いは教育機関の違いと、行政機関と国民のつながりの強さの違いです。

教育機関では、日本ではあまりない先生に対するサポートや生徒に対するサポート、日本とは少し違う授業などの違いがありました。生徒に対するサポートでは、フィンランド語を公用語としていない生徒にフィンランド語を個別で教えたり、学校に来て学ぶことが楽しいと思ってもらうために感情やコミュニケーションの授業も重視したりしていました。専門性を持った先生やアシスタントなど先生以外の人も関わっていて、障害があったり、公用語が違ったりする子でもその子にあったサポートがされていました。先生に対するサポートでは、先生たちが仕事をしやすいように主に仕事をする職員室と主にくつろぐ職員室の二つがあり、授業では二人以上の先生が組んで教えて責任をシェアしていました。主に仕事をする職員室では電話をするときに周りの音が入らず電話相手の声がしっかり聞こえるように電話ボックスが設置されていたり、授業後などで汗をかいていたら洗い流せるようにシャワー室を設置されたりと働きやすい環境が整えられていました。授業ではニュースを使い、インタビュー、コラム、インフォメーションを自分で調べるなどのアントレプレナーシップ教育がされていて、タブレットを使った授業も進んでいました。

フィンランドの「行政機関と国民のつながり」と日本の「行政機関と国民のつながり」では、フィンランドの方がとても強いと感じました。特に、Oodi では設計時に国民に「どういうサービスを入れてほしいか」というアンケートをとり、実際に書かれていた回答を階段の側面に書いたり、国会議事堂とOodi の高さをそろえることで近い存在であることがあらわされていたりしていました。フィンランドでは政治に国民が口出しでき、自分たちで国を作れるという感覚があるらしく、日本にはない感覚だと感じました。また、日本ではレコーディングスタジオなどの使う人が少ない場所を行政機関の建物として建てる必要がないと考えられていますが、フィンランドでは使う人がいるなら建てるという考え方がされていて驚きました。

私はこのようなたくさんの違いを見てきて、世界の広さを感じました。日本とフィンランドでは文化や教育や行政に関する考え方、大切にしていることなどさまざまな点で違いがありました。しかし、その違いを否定していくのではなく、認め合うことが世界のつながりに関係するのではないかと考えました。

最後に、今回の海外派遣事業でいろいろな活動をし、その中で日本との違いや世界の広さに触れてきましたが、最終的に思ったことはこの経験をさせてくれた人への感謝でした。私はこの活動に応募した時からたくさんの人に支えられてフィンランドに行き日本に帰ってきました。応募して選考を受けるときには学校の先生に協力してもらい、フィンランドに行く機会をいただき、フィンランドでの活動では現地の方にたくさんの経験をさせていただいてたくさんの方のことをフィンランドで学ぶことができました。このことを忘れず、普段の学校や家などの生活で感謝の気持ちをもって行動できるようになりたいと思います。

私がこの事業に参加しようと思った理由は2つあります。1つ目は将来国際線キャビンアテンダントが管制官になりたいと思っていて、他国の文化や歴史に興味があり、実際に現地に行って見たい、聞きたい、知りたいと思ったからです。2つ目は事業を通して将来について改めて考えたい、視野を広げたいと思ったからです。

最初に飛行機に乗って思ったことは1週間フィンランドでうまくやっていけるのだろうか、という不安や心配でした。実際に現地で話してみると言語の壁にぶつかり話していることが理解できず、なんでもっと勉強してこなかったのだろうと後悔したり悔しかったし、政治や行政などの難しい話もあり分からなくて話に入らず、英語での質問もできなくて自分が惨めだと感じました。しかしそれをどうにか打ち砕こうと途中から躊躇することなく1番に発表したり自分の気持ちを伝えようと毎日必死に頑張ったり、様々な考え方に触れる中で日に日に自分が成長しているのが分かったとてもよい1週間だったと感じました。

次に私が大事にしたいと思ったことと印象に残ったことについてです。まず1番印象に残ったプログラムは現地の小学校訪問です。訪問前は現地の沢山の小学生達に日本文化を教えることにとても緊張していたけど中に入ると穏やかな雰囲気や、楽しそうな笑い声ですぐに緊張がほぐれて現地の小学生達に日本の文化を知って、楽しんでもらおうと前向きな気持ちになることが出来ました。学校内を見学した後すぐに教室に移動して日本文化である日本舞踊を教えに行きました。最後まで一生懸命伝えようと頑張りました。授業は大成功に終わったと思います。みんな楽しんでくれてプレゼントのうちわもありがとうととても喜んでくれました。全員声を揃えて楽しかった！と言ってくれた時の笑顔が今でも忘れられず鮮明に覚えています。もちろん英語はカタコトだったろうし聞きにくかったと思います。しかし何よりも楽しんでくれて、言葉のつながりではなくても人と人はつながることができるのだなと感じました。そしてこの一日を通して私は気になる職業ができました。それは世界の教育について知り国際教育について関わる仕事が見てみたいと思ったことです。フィンランドで教育について学び、小学生のありがとうと笑顔で「教育」についてもっと知りたいと思ったからです。

2つ目はとにかくやってみる、挑戦するSISUの精神を忘れないことが大切だと思いました。最初は少し躊躇してしまうことがあり、私には分からないからと諦めようとしてしまいそうな時もありました。しかし自分の意見を発表するときまだ意見がまとまっていないからまだ発表できないと言うと、まとまっている文章じゃなくて自分の思ったこと、感じたことを素直に言って欲しい。と言われ自分が感じたことを考えがまとまってなくても発言していいのだとあーやとやぎーが教えてくれました。全てを正しくまとめなければいけないという思いはその時から消え、自分の思ったことを本心で話すことができるようになりました。ここで気づいたことは自分の思ったことを言った方が相手に伝わりやすく自分の考えも深まりやすいということです。その一言で私は新しい考え方をもつことができました。この事業を通して一番影響が大きくて自分の考え方が180度変わった考え方でした。

最後に、まだ私がフィンランドに行って感じたこと伝えたいことはここには書ききれないほど沢山あります。しかし私が一番伝えたいことは帰国して最終的に行き着いた自分の大切にしたいと思った考え方です。それは「何にでもなれる」という考え方です。私はフィンランドに行って感じたこと思ったことが沢山ありました。いろんな視点からの新しい考え方や現地の人に話を聞いていく中で、どんどん視野が広がり、自分の世界も広がっていきました。自分としっかりと向き合い私はなにがしたいのか、今のままでいいのかと毎日悩み続け、探り探りの1週間でした。しかしふと思うと1週間で私は色々な「わたし」になることができました。挑戦する私、新しいことを知る私、色々な私に出会えて自分としっかりと向き合い改めて様々な自分を知ることができました。また帰国して生徒会三役に立候補をするか悩んでいましたが、まずは挑戦してみようという気持ちで立候補することができました。

私はこのプログラムに参加することができて本当に良かったと思います。何よりみんながひとりひとり自分らしくあることができて年齢、性別関係なく本気で語り合える環境が私にはとても心地よくてすごく楽しかったです。一つ一つのつながりを大切に、「わたし」らしさを大切に。常に自分のオリジンを忘れずに私の考える未来を切り開いていきたいです。

私が海外派遣事業に参加しようと思った理由は、「中学生のうちに海外に行ける機会がまずないから行ってみたい。」そんなちょっとした興味本位でした。しかし、実際にフィンランドに行くと日本と違うことばかりで、私はその中でもフィンランドの「教育」について学びたいと思いました。フィンランドの教育は、就学前教育から大学院まで無償で提供されることが特徴です。貧富の差による教育格差を広げないというフィンランドの政策の一つです。7歳から9年間が基礎教育期間（義務教育）とされ、子供一人ひとりの特性を尊重し、学習時間が短く、全国統一テストや学校間の順位付けはありません。そのため、競争にさらされず自分のペースで安心して学べる環境であると考えます。小・中学校、高等学校に訪問して私が思った一番のキーワードは、「自由」です。小・中学校では教室に入る、前を向いて授業を受けるといった概念がないと感じました。また、机の配置の工夫やソファが設置されている等多様な学習スペースが見られました。「その子にあったサポートを学校側が提供する」それを子供達自身も自然と受け入れていました。授業中に言語が違う子に対してお互いに教え合いをしていました。その様な姿をみて、私も周りの人達と協力し、助け合える人になりたいと思いました。そして、日本との違いを一番感じたことは、教室のドアがないことです。高等学校も開放的な空間づくりとなっており、ドアはあっても皆教室にはあまりおらず、外のフリースペースを活用していました。壁やドアのような間仕切りが少ないことは、教室のレイアウトが固定されず、グループや個々の学習スタイルに合わせて変化させやすい利点があり、フィンランドの学校の「自由さ」だと思いました。私はこういった「自由さを基本とし、一人ひとりを尊重する」学校を日本にも増やすことで、教室に入れない児童生徒の気持ちに寄り添い、安心して過ごせる居場所になるのではないかと考えます。研修を受けていく中で私は新しい夢を見つけました。先生になり「国籍関係なく、皆が皆を受け入れ、自由に学べる学校」をつくる事です。現在、学校に行きたくないと思う中学生はおおよそ15人に1人と言われています。その理由は様々で、人間関係や勉強の難化などです。その子にあった環境で勉強できるスペースを作ったり、「必ず教室に入らなければならない」「入らないとおかしい」といった考え方から変えていきたいです。そう考えているうちに1つの疑問がうまれました。なぜ、日本の学校ではあまり外国の生徒は見られないのでしょうか？ 留学生数は近年増加傾向にあります。しかし、まだまだ受け入れ態勢を整えた学校は多くありません。文化・生活習慣の違いによるトラブル、受け入れ側の体制整備の負担、言語の壁が課題となっています。留学生が新しい環境に安心して過ごしてもらえるような学校創りを目指し、自分が学校を楽しんでいるのと同じように皆にも楽しいと思ってもらえるような学校にしたいです。

この一週間驚きと発見の日々で自分自身沢山成長することができました。

私がこのフィンランドの旅での一週間で1番感じた事は「何事にも挑戦する力」です。私は全く英語ができず、以前までは前に立つこと、発表も苦手でした。しかし、今回の海外派遣事業に自分から応募しようと思った事、インタビューミッションでは積極的に声をかけて、現地の方々にフィンランド語で自分が聞きたいことを聞く事ができました。授業ミッションであやとりを教える時には、英語ができないなりにジェスチャーや紙に書いたり、何とか自分の力で伝えようと努力する事ができました。生徒に伝わった時はとても嬉しかったです。家族と離れ、自ら考え行動する環境にいたからこそ成長できたと思います。今回の海外派遣事業に参加したことで自分自身も成長する事ができ、新しい一歩を踏み出すきっかけにもなりました。これからの人生の中で、普通に生きていれば出会わなかった人たち、学ぶことのできない新しい知識、芽生えなかった感情は一生忘れることのない私の財産です。これからは、フィンランドで見つけた私の新しい夢にむかって挑戦し続けていきたいです。

最後に、この海外派遣事業に参加したことで得た経験や知識を、地域のイベントや学校での報告会などで共有し「機会があれば外国というものを自身の目で見て肌で感じてきてください」と伝えていきたいと思っています。

私がこの海外派遣事業に応募した理由は二つあります。一つ目はフィンランドでさまざまな文化にふれ、その中でも特に教育について学びたいと思ったからです。フィンランドは世界の中でも教育レベルが高いことで知られており、どのような工夫がされているのかを実際に見てみたいと思いました。二つ目は海外の人たちと交流することで、視野を広げて、自分自身の成長につなげたいと思ったからです。

私のこのフィンランドでの一週間は、自分自身の成長につながり、未来の自分の夢を見つけられた貴重な一週間でした。なぜそう感じたか理由が大きく三つあります。

一つ目はフィンランドの教育を実際に見て感じたことについてです。小学校では移民などの様々な背景をもつ子供たちが多く居ました。先生たちが子供たちに合わせた教え方で生徒一人ひとりと向き合っていることにすごいなと思いました。そしてフィンランドでは子供たち自身が安心して学べる環境を作るために廊下など生徒達が好きな場所でグループ活動を授業中でもできるのが、日本とは異なる教育方法だなと思いました。そのほかにも「教育を学ぶ」だけでなく「教育を通してどのように教えるか」などの様々な視点で教えている事が興味深かったです。

二つ目は私がフィンランド国会議事堂の前にある国立図書館「Oodi」を訪れて感じたこと、思ったことです。そこで学べたことは Oodi では市民の意見をしっかり取り入れていることです。Oodi の三階の外の「バルコニー」が国会議事堂に対して同じ目線の高さになるように建てられていて、この大きな建物と立地は、「学び」が「政治」と同じくらい国にとって重要だと考えるフィンランドの社会を表していると説明を聞きました。私はフィンランドの行政は市民のためにしっかり税金を使っているのだなと思いました。私が一番図書館で驚いたことがあります。それは日本の図書館とフィンランドの図書館の考え方の違いです。日本の図書館は、「図書館では静かにしないといけない」などのきまりがあります。しかしフィンランドでは大人も子供も話していて、子供が遊べるように「キッズスペース」がありました。また、本を読んでいる人に迷惑が掛からないように子供の声や大人の声が建物内で響かないようになっていたり勉強などができるようにゆったりできるスペースがあったりします。利用者にルールで制限するのではなく建物自体がしっかり配慮していることにとても驚きました。

三つ目は私が大切にしたいと思う考え方についてです。それは「自分がやりたいと思ったことはしっかりすること」です。当たり前のように思えますが、私はこの考え方を大切にしようと思ったのには理由があります。この考え方は三日目の青年評議会での話で聞いた考え方です。その話では青年評議会でのマルクスさんの学生時代のしていたことや、政府の人たちとの話をするとき、などの話を聞いているときに「自分がやりたいと思ったことはしっかりする」という言葉を聞いて最初は「当たり前のことじゃないのか？」と思いました。そのあとにその考え方がいかに大事なのが、この後のマルクスさんの経験などを聞いてわかりました。私はこの考え方を聞いてこれからの生活でも生かしていこうと思いました。

私はこの海外派遣を通して新しい学び方や価値観を学ぶことができました。そして私はこの海外派遣で様々な問題や物事を考えるときに物事を表面的に見るのではなく、もう一度自分の考えに「なぜそうだったのか」「ほかの考え方は」と問いかけて、視野を広げることが大切だと気が付けた一週間でした。これからの生活もいろいろなことに興味をもち、この海外派遣で学んだことを活かして、これからも挑戦していきたいです。

高校生 作文テーマ

わたしを見つける。
世界へ羽ばたく。

Find myself and take off toward the world.



1. 海外派遣事業に参加したきっかけと課題研究について

私は現在、福岡県立鞍手高等学校の 3 年生で、英語を活かせる仕事に就きたいという思いから英検 2 級を取得し、現在は準 1 級に挑戦しています。しかし将来の進路はまだ明確ではなく、異文化での体験を通して自分の可能性を広げたいと考え、この海外派遣事業に応募しました。

事前の課題研究では「なぜ若者が直方市に関心を持たず、市外に出たまま戻ってこないのか？」という地域課題に注目しました。直方市には福智山や遠賀川など豊かな自然環境がありますが、その魅力が若者に十分伝わっておらず、地域への愛着が育ちにくいと感じています。私は今回のフィンランド研修を通して、現地の若者がどのように自然と関わり、自然と共生する暮らしを築いているのかを学び、直方市の自然の価値を再発見したいと考えました。現地では、学校訪問やフィールドワークを通じて、自然に対する関わり方や意識を調査しました。

2. フィンランドで感じたことと研究成果について

研修を通して最も印象に残ったのは「自然が生活の一部として当たり前存在している」という点でした。現地でのインタビューでは「気分が落ち込んだときにはサウナに入った後、海で泳いで頭をリフレッシュする」という話を聞き、自然を日常の一部として取り入れていることに驚きました。日本における自然との距離感の違いを強く感じました。

初日のキャンプでは、フィンランドの雄大な自然を体感し、参加者同士の交流も深まりました。2 日目の森の散策では、フィンランド特有の植生や、日本では見られない植物にも触れ、自然の多様性と奥深さを実感するとともに、日本の自然の良さとは何かという興味も湧きました。

3 日目には青年評議会を訪問し、私と年代代の若者が政治参加の意義を真剣に考え、積極的に発言している姿を見て衝撃を受けました。日本の若者は政治を「遠いもの」と感じがちですが、彼らのように「自分の声が社会を動かす」と信じる姿に感銘を受け、私自身の政治への意識も変わりました。

また、Oodi 図書館では、読書に限らず、音楽制作や会議、子どもが遊べるスペースまで備えた多機能な施設として、多くの人が自由に利用している様子に驚きました。「図書館＝静かに読書をする場所」という日本の常識とは異なり、図書館が人々の創造や交流の場として機能していることに感動しました。

4 日目には小学校と高校を訪問しました。小学校では 1 クラスに 2 人の先生が担当する制度があり、教師同士で分担・連携できる環境が整っていました。こうした仕組みが、教師にも生徒にも負担の少ない教育環境を作っているのだと感じました。また、小学校で日本語の授業を行った際、子どもたちが一生懸命に考えて発表してくれたことがとても嬉しく、異文化交流の意義を実感しました。

5 日目には「フィンランドの魅力は何か？」というインタビューを行いました。多くの人が「自然が身近にあること」「空気がきれい」「環境が整っている」といった答えを挙げ、自然への高い関心と誇りが伺えました。日本との自然観の違いを改めて認識し、自然との向き合い方について考えるきっかけになりました。

3. 海外での研究成果を踏まえた今後の取り組み

フィンランドでの研修を通して、私は自然との関わり方や地域社会への参加の仕方が、日本とは大きく異なることを実感しました。特に若者が自然を日常の中で積極的に活用している姿に感銘を受け、直方市でも同じように「自然と暮らしがつながる仕組みづくり」が必要だと感じました。これからは、直方市の自然資源一例えば福智山や遠賀川など一の魅力、同世代の若者に向けて発信していく活動に取り組みたいです。たとえば、学校の友だちと自然の中でのワークショップを企画したり、SNS やラジオを活用して「まちの自然の良さ」を伝える情報発信を行ったりしたいと考えています。

また、青年評議会で見たとような若者の政治参加の姿勢を見習い、日本の若者も自分の意見を積極的に持ち、発信することの大切さを感じました。選挙権を持つ年齢になった今、地域の一員として自分がどんな行動をとるべきなのかを考え、より良い地域づくりに貢献できるよう努力したいと思います。

この派遣事業をきっかけに、未だ自分が進むべき具体的な進路は定まっていないものの、「世界と自分」「地域と自分」のつながりを意識しながら、自分の可能性や地域における役割を追求し続けたいと考えています。

私にとってフィンランド研修の 6 日間は、すべてが挑戦の連続だった。料理が好きで世界の食文化に興味を持っていた私は、自分の世界を広げたいと思い、この研修に応募した。同時に、自分に自信が持てない自分を変えたいという気持ちもあった。そんな思いを胸に迎えた初日から私の挑戦は始まった。

初日の活動は、森の中で自然と向き合うワークショップだった。木の香りや鳥の鳴き声、冷たい空気など、五感を使って自然と向き合う時間はとても新鮮だった。私たちは 2 人 1 組になり、目のカメラで自然の風景を撮影したり、自然の素材を使って自己紹介する課題に取り組んだ。最初はどの表現したらいいかわからず戸惑った。けれど、周りの人と一緒に考えながら少しずつ形にしていくうちに、自分の考えを形にする難しさと仲間と協力して一つのものを創り上げる喜びを感じることができた。そして私は初日から、完璧を目指すよりも、まず行動してみることが大切だと気付いた。森のハイキングでは、日本とは違うカラスの鳴き声が聞こえてき、道端に生えてるキノコやトナカイのチーズなど、日本では味わえない食材に触れることができた。木々が生活や文化に深く根付いていることも知ることができ、自然の豊かさに改めて感動した。

街や中央図書館 Oodi を訪れた時は、自由に過ごす人々の姿が印象的だった。ソファに座ったり床でくつろいだり、友達と話したり勉強したりする人たちを見て、環境が人の学びや意欲に大きく影響することを感じた。Oodi は 3D プリンターやゲームの貸し出し、カフェやミーティングルームまであり、誰もが自由に使える場所として設計されていた。こうした環境が、人々の主体的な学びや挑戦を支えているのだと思った。

英語でのコミュニケーションも大きな挑戦だった。研修の仲間には英語を流暢に話す人が多く、最初は自分の言葉がうまく出てこず悔しい思いをした。相手が優しく待ってくれたり笑顔で受け止めてくれたりしたことで、「間違ってもいいから伝えよう」と思えるようになった。英語ができる仲間の姿は輝いて見え、自分の努力しようという気持ちが湧いた。人は互いに刺激しあって成長していくのだと実感した瞬間だった。

私が探求したテーマは料理だ。現地のカフェや学校給食を通して、改めて「食は人をつなげる力」があると感じた。給食はビュッフェ形式が多く、子供たちは自分で食材を組み合わせたり、配膳を手伝ったりしていた。協力する楽しさや達成感を自然と学んでいるのだと思う。パンしか食べない子がいても、それも自分で選ぶ自由として受け入れられていたのが印象的だった。フィンランドのように寒い国は塩気の強い料理が多く、日本とはまた違った美味しさを感じ、食は人を笑顔にする力があることを再確認することができた。

小学校や高校を訪れたときも、多くの発見があった。授業などでは決まった席に座るのではなく、外や小さい個室、廊下などあちこちでグループワークをしていた。場所が自由でも子供たちは集中して話し合い、協力して作業を進めていた。その姿を見て、その自由さが学びの楽しさや積極性につながるのだと思う。日本では決まった場所で静かに取り組むという当たり前があったからこそ、自分の中の当たり前が覆された瞬間でもあった。高校では、単位制のもと、自分の興味や学びたいことに応じて科目を選ぶことができ、必要に応じて変更することもできた。卒業は大切だがそれ以上に、自分が本当にやりたいことを優先して学べる考え方が素敵だった。こうした経験を通して、自分自身もやりたいことを見つけ、それを大切にして行動し続けることの重要性を改めて学んだ。

この研修を通して私は、挑戦することの大切さと、新しいことを知ることの楽しさを強く実感した。英語がうまく話せず何度も悔しい思いをした時もあったが、それも挑戦の一部だと受け止めることでこれからも頑張ろうと思えるきっかけになったり、自分自身の成長に繋がったりすることができた。森の中で自然を観察したときや、日本では静かに過ごすことが当たり前とされている図書館はフィンランドだと自由に誰でも使えるものとして設計されており、新しい世界に触れる喜びと発見が自分の内面にも刺激を与えてくれた。

自分の料理で人を笑顔にする夢も、挑戦をし続けることで少しずつ現実に近づくのだと思う。そして将来は、料理を通してだけでなく、自分の行動や言葉で人を動かせる人間になりたい。フィンランドでの 6 日間は挑戦することと、新しいことを学ぶことの楽しさ、そして自分の可能性を信じて行動する大切さを教えてくれた。これからも、その経験を胸に勇気を持って新しい世界へ踏み出し続けたい。

私がフィンランド研修で学びたかったことは、日本とフィンランドでのカウンセリングの対応の違いについてです。そこでフィンランド人の「幸せ」について深く探求してきました。

まず、日本人は辛いとき一人で抱え込む人が多く SNS に逃げたり最悪命を絶つ事例が多くあります。フィンランド人の場合は湖に行ったり太陽を浴びる、お散歩をするなど自分から幸せを探し求めている一方で日本人はただ幸せを待っている印象を受けました。日本人は「助けて」と声を上げることが悪いことだと思っていますが、フィンランド人はうつ病を患ったときでもうつについてオープンに話すのが普通で悩みを共有し合うという理念が幸せへとつながっているのではないかと思います。特に印象的だったのは、学校での自由な雰囲気です。日本のように厳しい校則はなく、生徒一人ひとりの個性やペースが尊重されていました。とはいえ、それは単なる自由ではありません。フィンランドの「自由」は、信頼されているからこそ、自分で考えて行動するというスタイルでした。このような教育環境は、勉強の意欲向上や、学力向上、幸福度にもつながっていると感じました。実際、フィンランドは世界で最も幸せな国と言われています。その背景には、教育だけでなく、社会全体に「みんなで幸せをつくる」という意識が根づいていることがあります。公正・公平は誰か一人のためではなく、社会全体がバランスよく幸せであることを目指しています。行政も「平等」という考え方を大切にしていって、たとえ生活に困っている人がいても、見捨てることなく必要な支援が受けられる仕組みがあります。実際に現地の高校生と交流した際にも、「平等」という言葉を自然に口にしていって、街頭インタビューでも同じ言葉が出てきて、フィンランドの若い世代にまでその価値観がしっかり根づいていることを感じました。みんながその意味を理解し、当たり前のように口にしている姿に、私はとても驚きました。

英語がうまく伝わらない場面もありましたが、それでも挑戦を続けることができたのは、人々の温かさがあったからだと思います。他国から来る人々を受け入れる姿勢もあり、フィンランド人には「発言する力」と「受け入れる力」があると感じました。一方で、日本では行政との信頼関係がないため、どんな政策にも批判が起きやすい傾向があります。フィンランドでは、行政との信頼関係があるからこそ、政策が前向きに改善され、国全体がより良い方向へと進んでいるように見えました。しかし、フィンランドの人々の中には「幸せすぎて生きる意味がわからない」と語る人もいました。物質的に満たされ、社会的な不安が少ない一方で、生きる目的を見失う人がいるという現実も知りました。自由がある分、孤独を感じることもあり、豊かさが必ずしも永遠の幸せにつながるわけではないことを実感しました。

この研修を通して、私自身の価値観も大きく変化しました。私のこれまでの挑戦には、いつも大きな迷いや恥ずかしさがつきものでした。しかし今の私は、挑戦の前にまず「後悔したくない」という強い思いが湧き上がるようになりました。研修では「後悔しない、やりたいことを全部やる」という目標を掲げ、研修後もこの言葉を座右の銘として日々を過ごしています。この経験をきっかけに、「人生は一度きり。誰よりも充実した人生にしたい」と強く思うようになりました。そして私は、「未知の世界に飛び込んでみたい」「もっと挑戦してみたい」という気持ちが芽生え、その思いから日本で心理士として働くことから「海外で働く」という新たな目標へと大きく変わりました。この研修は、私にとって“幸せを再定義する旅”でした。フィンランドでの経験を通して得た気づきや価値観は、これからの私の人生に大きな影響を与えていくと思います。そして私は、これからも「後悔しない、やりたいことを全部やる」という言葉を胸に、未知の世界に飛び込むことを恐れず、挑戦を続けていきたいです。私が海外で学んだ「幸せのかたち」や「人とのつながりを大切にする姿勢」を、いつか自分の地元である直方市に還元したいと考えています。人が人を支え合い、心から笑顔でいられるまちづくりに貢献できるよう、まずは私自身がその一歩を踏み出していきます。

現在は、課題研究として直方市の夜市を通じた地域活性化に取り組み、人々のつながりを深める活動を行っています。また、フィンランドで学んだ“人とのつながり”の大切さや“自分に合った理想の学び場づくり”の考え方を課題研究に取り入れ、より多くの人々が安心して自分らしくいられる環境づくりを目指しています。これからも、フィンランドでの学びと直方市での経験を生かし、学びを活かし広げていきたいです。

「公正と公平は、私にとってどんな意味を持つのか？」これは私が旅を通して大切にしてきた問いです。フィンランドで見た補いあうことや社会のあり方を通して、私はようやく自分なりの答えを見つけました。それは——公平とは、誰かだけが幸せになることではなく、みんなのバランスを保つことです。

まずフィンランドでの学びを紹介します。Oodiを訪れた時の学びは、必要なものを必要なだけ届けことが公平だという実感でした。館内では食べながら本を読むことができ、会議や大きなスクリーンでの作業、バリアフリー、多言語対応、ジェンダーフリーのトイレ、料理教室、劇場など多様な場がありました。特に印象に残ったのは、螺旋階段に刻まれた「老婆、魔法使い、ホームレス、フィンランド人、温かさを求める人、サウナが好きな人、本の虫、ベジタリアン、車いすの人…」というOodiが誰のためにあるかの言葉です。誰でも居場所を見つけられるように作られている、その姿に公平は誰も見落とさないことも含まれると感じました。インタビューミッションで出会ったフィンランド在住の方はこう言いました。「私にとって公平は、心の内の平穏から始まる。余裕があって幸せに過ごせていれば、社会全体に公平さの土台が作られる」と。私はこれまで、公平を制度や仕組みとして捉えていました。しかし、その言葉で「自分が他者と穏やかに向き合える心の余裕」が社会の土台を支えていると気づきました。そして、小学校訪問で気づいたのは、補いあうマインドです。あやとりの授業をしたとき、英語が苦手な子に英語が分かる子が私の言ったことを自然に教えていました。不得意をネガティブに捉えるのではなく、得意なことを互いに補い合う姿勢が日々の小さな行動にも根付いているのだと感じました。

ここから私が気づいたことを深めていきます。まず、公平は「制度としての公平」「人と人との公平」「心の中の公平」という三つの重なりで成り立っていると思います。自分を大切にでき、幸せを見つけられれば、他者も大切にできる。そうした個々の在り方が、制度や仕組みをより公正にするという循環が生れるのではないのでしょうか。フィンランドでは、Oodiをはじめ、公共施設やシステムなど市民の声と行政の取り決めが次世代に受け継がれることの責任を体現していました。国民を誰ひとり取り残さない公平のもと、信頼が自由を支えていたように思います。

また、日本の政策のうち私立高校の授業料無償化について考えました。短期的には家計負担の軽減や選択肢の広がりが期待できます。しかし、もし私立に通う生徒が増え、公立の志願者が減れば、公立の設備や教員不足など教育の質に影響が出る可能性もあります。教育制度の改革は短期的な得失だけでなく、長期的なバランスを考えることが必要だと思いました。フィンランドの教育制度を日本にも導入するならば、フィンランドの仕組みをそのまま真似るだけでなく、日本の課題に合った公平を見つけることが必要だと感じました。私にとっての公正・公平は、「一部の人利益を得たり、不利益を被ったりするのではなく、みんなのバランスが保たれること」です。クラスの話し合いでも多数決をとることが多いですが、多数決だけでは少数意見が反映されにくいから、意見を分類しそれぞれの利点を組み合わせる決め方もあると思います。フィンランドの青年評議会のように、若者・自治体・政府がパイプのように繋がり、若者の声が制度に反映される仕組みからは多くの学びを得られます。

最後に、このフィンランド研修で得たものがもう一つあります。それは、「ありがとう」を見つける習慣です。自分にはない視点をもち、一緒に世界を1ミリでも動かしていこうする仲間ができたから、得られた経験、学び、想いがあります。自分の世界が広がるたび、幸せだと感じたし、自分も気づきを与えられる人になりたいと常に進んでいて、成長する自分を誇らしく思えました。6日間で私は、物事をいろんな角度から見る「レンズ」を手に入れました。そのレンズをかけて、相手の立場や想いを尊重しながら行動していきます。将来はドイツで経済・経営を学び、戦略コンサルタントとして、公平と信頼に基づく「幸せが循環する社会」をつくる一人になります。





